

新宮山彦ぐるーぷ第2032回
奥駈道(行者還岳から七曜岳迄)の倒木処理と整備

第一回目

◇実施日；2019年7月05日(金)

曇りのち時々雨

◇参加者；山川治雄、梶野照雄。

2名。

先日、小笹の宿から阿弥陀ヶ森間の奥駈道の倒木処理を行ったが、行者還岳から七曜岳迄の奥駈道にも台風による倒木が多く残されているようなので、山川さんに応援をお願いして切除に向かった。



距離標90番登山口で

タイタン広場

奥駈道に合流

午前8時半にR309・距離標90番(R169天ヶ瀬から4.5km)で待ち合わせ。8時25分に到着すると、山川さんはすでに着いていて、もう一人の女性登山者と話をしていた。この女性は奥駈道周辺を頻繁に歩いている人で、今日は弥山でテン泊の予定だそう。彼女はnara7のハンドル名でヤマレコに多数の投稿をしている。

山川さんはこのルートが初めて、私は行者還岳へは8年ぶりである。約30分で通称“タイタン広場”ここから暫くは、ほぼフラットな作業道に行く。

作業道は途中で東向きにそれて等高線上を東進しているようだ。一面の笹原になると奥駈道はすぐそこだ。奥駈道に出たところではしばし休憩。



小屋迄にも倒木



行者還小屋



最初の大量倒木

行者還小屋までの間に倒木3本を切除、小屋に着くと関東から来た若い男性が一名、天気が悪いので昨日から小屋に居着いているそう。しばらく話をしながら北上を始める。行者還の水場付近は相変わらず荒れたままである。行者還水のホースからはよく水が出ていたが、小屋の蛇口からは水が出てなかった。

行者還岳山頂への分岐を過ぎてすぐ、奥駈道石柱標の傍で3本の倒木によって道が完全に塞がれていた。西側に捲き道が出来ている。その20m先に直径50cmほどの楓が根返りして道を塞いでいた。



イメージ通りに倒木切除成功



手前に50cm、向こう側に30cmの2本が同時に倒れているが、根の状態から、切りさえすれば根はもと通りに起き上がる事が判っていたので、先に30cmを切断、次に太い方を切る。
イメージ通り、切断と同時に根は起き上がり、少し飛び出た幹を切って作業終了。ここでの作業時間は12分だった。



山頂への分岐で倒木切除



折れた杉の切除

11時半になっていたので昼食。食後、石柱標傍の倒木を切除する。直径は20cmほどだが枝が多くて、終了まで20分かかった。
5分ほど歩くと径25cmの杉が折れて通せんぼしている。枝は多いが一本だけなので10分足らずで切除完了した。
折れた杉の処理を終えて北上を続ける。途中、何本もの倒木があったが、道を塞いでいる物は少なく、また通り易い捲き道が出てくるので、横眼に見て通過する。



時間がかかった2本の倒木切除

25分ほど歩くと大物が現れた。直径が50cmの物が10mの間隔で2本、北側の方は30cmのヒメシヤラなどが絡んで複雑に倒れていた。慎重に枝先から切って太い幹を切る。下向きに倒れているので、根は立ち上がらない。手前の倒木の処理に30分、奥の処理に25分を要した。
持ってきた燃料も全て給油、小雨が降ってきたので、ここで本日の作業を終了して帰路につく。
今日、できれば七曜岳までと思っていたが、太い倒木の処理に思わぬ時間がかかったことと、雨が降り出したために七曜岳まで

の三分の一くらいしか処理できなかったが、作業時間の合計は2時間10分に及んだ。

行動タイム

R309・距離標90番08:45→09:51 奥駈道合流→10:11 行者還小屋 10:50→11:14 奥駈道・行者還岳分岐→12:30 連続倒木処理 13:25→13:52 行者還小屋→14:50 奥駈道分岐→15:37 R309 距離標90番。

第2回目

◇実施日；2019年7月12日（金）

晴

◇参加者…梶野照雄。

1名。

7月5日に山川さんと二人で倒木の処理を行ったが、降雨のために早めに引き返したので、晴天が確実な日を選んで続きの処理を行った。



登山口



中間部の作業道



第58摩・行者還

前回と同じく8時半にR309距離標90番を出発、10時48分に行者還小屋に着く。北の方から法螺貝の音が聞こえてきた。

小屋を出てすぐに行者装束の一行と出会う。吉野・喜蔵院の奥駈修行(吉野↓前鬼)18名だった。最後尾は先頭から5分ほど遅れている。最年少の行者がひざを痛めて遅れているらしい。付き添っていた先達らしい行者と少し話をして別れる。



喜蔵院・奥駈修行一行



登山者が通過する



道を遮る倒木切除完了

先週処理をした場所を次々と越え、P1485mの北側鞍部で直径が50cmほどの倒木が道を遮っていた。地面を這うようにすれば下を通過できるが、切除を開始する。5分ほどチェーンソーを使っていると南下してくる登山者が目に入った。一旦チェーンソーを止めて通過していただく。「何分くらいかかりますか?」と聞かれたので、「20分位かな」と答えたが、実際は1ヶ所で20分、2ヶ所を切断したので40分かかった。

当初は1ヶ所を切れば根が立ち上がる、とみていたが、切ってみると根と幹がちょうどバランスを取っていて、上にも下にも動かない。3m位の枝を切ってテコにして動かしてみたが、まったく立ち上がらず、仕方なしにもう1ヶ所を切断した。切り落とすと同時に根はもと通り水平になり、通行の支障は無くなった。しかし、持ってきた燃料の大半をここで使ってしまった。



七曜岳南側迄の奥駈道の倒木処理



行者還小屋迄の戻り道でも、細い倒木3本を切除、小屋から奥駈道の分岐までに2本を切除した。奥駈道の分岐に横たわっている古い倒木にステップを切っている途中で、とうとう燃料切れになり中途半端な状態で終わってしまった。

行動タイム

R309・距離標90番 08:35→09:56 奥駈道→10:48 行者還小屋
 10:53→11:36 みなきケルン→12:11 倒木処理 13:00→14:40 七曜
 岳南→16:05 行者還小屋 16:22→17:20 奥駈道分岐→18:15 R30
 9・距離標90番。
 (記：梶野)

更に北上を続けて、七曜岳の岩稜を登りだす。後200m位で七曜岳に着くと思われるところまで登ったが、この先の岩尾根に今までの様な大木は無いと考えられるので、引き返すことを決めた。ここまでも10〜20cmの倒木4本を切除、時刻は午後3時になった。



行者還小屋を過ぎた奥駈道の倒木処理

本日の作業範囲